

別紙1：令和7年度新卒採用技術職・業務分野及び主要拠点一覧

分類	業務分野	No.	主な勤務拠点
A	研究開発拠点における技術開発分野 ・原子炉・加速器等に関する運転・保守 ・廃止措置及び廃棄物処理・処分 ・燃料製造・再処理技術開発 ・放射性物質等の分析・解析・評価 ・原子力災害対策に係る業務 など	1	福島拠点
		2	原子力緊急時支援・研修センター
		3	原子力科学研究所
		4	大洗研究所
		5	敦賀総合研究開発センター
		6	核燃料サイクル工学研究所
		7	人形峠環境技術センター
		8	敦賀拠点
		9	本部（バックエンド統括本部）
B	核セキュリティ及び放射線管理・測定・モニタリングに関する技術開発分野 ・B-1 核不拡散・核セキュリティ関連業務 ・B-2 放射線管理・測定・モニタリング関連業務	99	全拠点
C	建設及びユーティリティ施設の工務技術に関する分野 ・C-1 建設に関する分野 ・C-2 ユーティリティ施設の工務技術管理に関する分野	99	全拠点
D	基幹情報システムの運営・技術開発分野 ・システム計算科学センターでのシステム業務	3	原子力科学研究所

<募集業務分野・関連拠点一覧>

No.	拠点名〔所在地〕
1	福島拠点〔福島県〕
2	原子力緊急時支援・研修センター〔茨城県〕
3	原子力科学研究所〔茨城県〕
4	大洗研究所〔茨城県〕
5	敦賀総合研究開発センター〔福井県〕
6	核燃料サイクル工学研究所〔茨城県〕
7	人形峠環境技術センター〔岡山県〕
8	敦賀拠点〔福井県〕
9	本部（バックエンド統括本部）〔茨城県〕
99	全拠点 ※上記の拠点に加え、幌延深地層研究センター〔北海道〕、青森研究開発センター〔青森県〕、東濃地科学センター〔岐阜県〕、播磨放射光R I ラボラトリー〔兵庫県〕

## 別紙1：令和7年度新卒職員（技術系職員）採用募集要項・業務分野詳細

A	業務分野名	研究開発拠点における技術開発分野
A-1	本分野関連 拠点名	福島研究開発拠点
	業務概要	東京電力ホールディングス㈱福島第一原子力発電所の廃炉に向け、事故により溶融・固化した燃料デブリや多種多様な放射性廃棄物等の取扱い、分析技術、評価手法の開発及び高度化を進めています。最先端の分析装置群、試験やシミュレーションも併用しながら内外の専門家との協力体制の下に活動を進めています。 また、研究開発を進めるための基盤整備を並行して進め、燃料デブリや放射性廃棄物の分析・研究を担う施設などで、安全、分析、機器運転・管理及び施設等の整備に係る技術管理体制の構築も行います。
	求める人物像	○課題を解決するために、自らの意思で行動を起こし、職場の仲間とともに協力しながらその解決に向けて、柔軟に取り組むことができる人 ○現状に満足せず、常にカイゼンする意識をもちながら積極果敢に物事に取り組める人 ○福島復興に貢献するゆるぎない意志を持つ人
	アピールポイント	廃炉を安全かつ着実に進めるための技術課題の解決を目指します。私たちの取り組みが廃炉と、その先の福島の復興に不可欠で社会的に果たす役割は大きいと思います。 加えて、世界に類のない取組と言え、将来の第一人者としての知識と経験が得られます。
	専攻分野（望ましい分野）	理学系：数学・情報、物理、化学、生物・農学、地学・地球科学、量子科学 工学系：機械・システム工学、電気・電子、材料、土木建築、環境工学、原子力工学 その他：
	関連するHP	<a href="https://fukushima.jaea.go.jp/">https://fukushima.jaea.go.jp/</a> <a href="https://fukushima.jaea.go.jp/recruit/">https://fukushima.jaea.go.jp/recruit/</a>
A-2	本分野関連 拠点名	原子力緊急時支援・研修センター
	業務概要	原子力機構では、福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた新しい原子力災害対策の考え方に基づき、発災時の対応にあたる国や地方公共団体に対して人的・技術的支援を実施しています。本分野では、緊急時の放射線モニタリング技術や緊急時における被ばく線量の評価技術の開発、国や地方公共団体の防災関係者への研修など、原子力災害対策の高度化を目指した業務を幅広く行っています。
	求める人物像	原子力防災や災害対策に意欲的に取り組む方、住民や社会への貢献を志す方を募集します。
	アピールポイント	原子力に関する緊急時には国の意思決定や地方公共団体の住民避難等を支援する重要な役割を担います。平常時には、我が国の原子力防災の実効性向上に資する技術開発を進めており、能登半島地震を踏まえてその重要性が改めて認識された自然災害と原子力災害の複合災害への対応についても重点化して取り組んでいます。
	専攻分野（望ましい分野）	理学系：数学・情報、物理、化学、生物・農学、地学・地球科学、量子科学 工学系：機械・システム工学、電気・電子、材料、土木建築、環境工学、原子力工学 その他：
	関連するHP	<a href="https://www.jaea.go.jp/04/shien/">https://www.jaea.go.jp/04/shien/</a>

## 別紙1：令和7年度新卒職員（技術系職員）採用募集要項・業務分野詳細

A-3	本分野関連 拠点名	原子力科学研究所
業務概要	<p>原子力科学研究所で行っている、国内でも他に類をみない様々な原子力基盤研究施設を利用したユニークな研究開発活動を、高度な専門技術者として支援する人材を募集します。</p> <p>①試験研究炉及びタンデム加速器施設の運転管理・保守管理、廃止措置を行います。</p> <p>また、原子力はもとよりその他の幅広い分野の専門性を活かして、試験研究炉JRR-3の利用性能の向上（中性子強度の増強、医療用RIの増産など）に向けた技術開発を行います。</p> <p>②臨界実験装置及びホットラボ施設の運転・保守管理、廃止措置、燃料・材料の化学分析・放射能分析・物性測定及びそれらの技術開発を行います。また、福島第一原子力発電所のデブリ燃料取り出しに必要な臨界データ取得のための技術開発を行います。</p> <p>③放射性廃棄物の減容安定化処理・保管管理、分析・測定及び使命を終えた原子力施設の廃止措置及び技術開発を行います。また、将来のバックエンド対策を推進する技術開発を行います。</p> <p>④放射性廃棄物を有用な資源に変えることを狙いとした技術開発を行います。具体的には、ホット施設において白金族・レアメタル等の希少元素を分離する技術、分離した放射性元素を熱源や電池として活用するための技術開発を行います。また、劣化ウランを大容量蓄電池として活用するための技術開発を推進します。</p>	
求める人物像	<ul style="list-style-type: none"><li>・ユニークな研究開発の基盤を支える専門技術者を目指し、自分の専門分野以外にも積極的に取り組み、知識・技術の習得に意欲的に取り組める方。</li><li>・役割をしっかりと認識するとともに、個人の特徴・能力を存分に発揮して、同じ目標に向かって一丸となって取り組むことができる方。</li><li>・原子力技術や他の技術を組み合わせ、新たな価値を創造することを目指し、意欲的にチャレンジしようとする意思のある方。</li></ul>	
アピールポイント	<p>原子力科学研究所は、「放射性物質の再資源化」「リニューアブル社会への貢献」「医療用RIの製造」「原子力施設の更なる安全性向上」を4本柱として、原子力の基礎・基盤から物質科学、先端基礎科学まで多岐にわたる研究分野において原子力利用と科学技術を支える国内唯一の研究所です。</p>	
専攻分野（望ましい分野）	<p>理学系：数学・情報、物理、化学、生物・農学、地学・地球科学、量子科学</p> <p>工学系：機械・システム工学、電気・電子、材料、土木建築、環境工学、原子力工学</p> <p>その他：</p>	
関連するHP	<p><a href="https://www.jaea.go.jp/04/ntokai/">https://www.jaea.go.jp/04/ntokai/</a></p>	

## 別紙1：令和7年度新卒職員（技術系職員）採用募集要項・業務分野詳細

A-4	本分野関連 拠点名	大洗研究所
	業務概要	<p>当研究所は、革新炉（高速炉や高温ガス炉等）開発のための試験研究炉、照射後試験施設等における運転・試験に関連する技術開発、並びに廃止措置・放射性廃棄物処理処分に係る技術開発を柱に、以下の業務を国内外の関係機関とも協力しながら実用的な研究開発・技術開発を進めています。</p> <p>○高速炉サイクルの研究開発 次世代高速炉（プラント、炉心、燃料）の設計、及び研究施設（高速実験炉「常陽」、高速炉研究開発関連施設、核燃料試験施設、機器開発試験施設等）を活用した高速炉安全性向上試験、燃料・材料の照射試験、革新技術の実証試験等、並びに各施設・設備の運転、点検、保守等に関する業務</p> <p>○高温ガス炉及び熱利用技術の研究開発 HTTR（高温工学試験研究炉）を利用した安全性実証試験、HTTR熱利用試験施設の安全評価、水素製造技術開発等、及び関連施設・設備の運転（HTTRの運転を含む）、点検、保守等に関する業務</p> <p>○材料試験炉等の廃止措置及び関連技術開発業務 材料試験炉（JMTR）及びJMTRホットラボの施設管理、及び廃止措置のための技術開発等に関する業務</p> <p>○廃止措置・放射性廃棄物処理処分技術開発 重水臨界実験装置（DCA）等の原子力施設の廃止措置技術開発や廃棄物管理施設及び固体廃棄物減容処理施設（OWTF）等の設備運転、試験、点検、保守、並びに放射性廃棄物処理処分のための減容や分析等の技術開発等に関する業務</p> <p>○安全管理等支援業務 研究所における安全管理、核物質防護、各施設のインフラ管理・工事監理等研究開発の支援業務</p>
	求める人物像	<p>○原子力の研究開発には社会との対話による理解促進が必要であり、技術者としての能力に加えて、様々なステークホルダーとの交流を深めながら研究開発を進められる前向きでバイタリティのある人材。 ○常に好奇心と向上心を持ち、かつ、技術の深さと広がりを持ったエンジニアの育成を目指し、原子力のみならず、電気、機械、化学、材料などの工学、理学をはじめ幅広い人材。</p>
	アピールポイント	<p>原子力の次世代を担う高速炉サイクル及び高温ガス炉の研究開発を実施している高速実験炉「常陽」、HTTRを始め国内外が注目する原子炉や関連する施設が多数設置されている大洗研究所は最先端技術を体験しながら働ける職場です。 また、研究所が立地している大洗町は、太平洋も近く、風光明媚な観光地としても全国的に知られていません。このような環境のもと、自分自身の次のステージを私たちと共有しましょう。</p>
	専攻分野（望ましい分野）	<p>理学系：数学・情報、物理、化学、生物・農学、地学・地球科学、量子科学 工学系：機械・システム工学、電気・電子、材料、土木建築、環境工学、原子力工学 その他：</p>
	関連するHP	<a href="https://www.jaea.go.jp/04/o-arai/research/research_04.html">https://www.jaea.go.jp/04/o-arai/research/research_04.html</a>

## 別紙1：令和7年度新卒職員（技術系職員）採用募集要項・業務分野詳細

A-5 本分野関連  
拠点名

敦賀総合研究開発センター

業務概要

敦賀総合研究開発センターでは、原子炉の廃止措置への適用を見据えたレーザー応用技術開発及び高速炉への適用を見据えた機器・構造物の検査技術開発等を実施しています。また、これら試験施設のインフラ管理、ならびにイノベーション創出のための産学連携活動等の研究開発支援業務等を実施しています。

求める人物像

○原子力の研究開発には社会との対話による理解促進が必要であり、技術者としての能力に加えて、様々なステークホルダーとの交流を深めながら研究開発を進められる前向きでバイタリティのある人材。  
○常に好奇心と向上心を持ち、かつ、技術の深さと広がりを持ったエンジニアの育成を目指し、原子力のみならず、電気、機械、化学、材料などの工学、理学をはじめ幅広い人材。

アピールポイント

敦賀総合研究開発センターは、上記の業務内容に対して、社会実装を意識して研究・技術開発を進める総勢約50名の比較的小規模な組織です。個々人の技術力を発揮しやすい環境にあると思います。

専攻分野（望ましい分野）

理学系：数学・情報、物理、化学、生物・農学、地学・地球科学、量子科学

工学系：機械・システム工学、電気・電子、材料、土木建築、環境工学、原子力工学

その他：

関連するHP

<https://www.jaea.go.jp/04/tsk/>

## 別紙1：令和7年度新卒職員（技術系職員）採用募集要項・業務分野詳細

A-6 本分野関連  
拠点名

核燃料サイクル工学研究所

当研究所では、核燃料サイクル技術開発によるカーボンニュートラルへの貢献と持続的なバックエンド対策の着実な推進を柱に、以下の業務を海外とも協力しながら実用的な研究開発・技術開発を進めています。

○核燃料サイクルに係る研究開発・技術開発

次世代炉用燃料設計・研究、次世代燃料用製造プロセス開発、MA含有燃料等の物性研究、軽水炉MOX燃料等の再処理技術開発、高速炉燃料等の再処理技術開発（MA分離回収含む）、AI等を活用した検査技術開発、分析用標準試料の技術開発、保障措置用先進非破壊測定技術開発

業務概要

○放射性廃棄物の処理処分に係る研究開発・技術開発

高レベル放射性廃棄物及びTRU廃棄物の処理・処分の研究開発、低レベル放射性廃棄物の処理・処分の技術開発、遠隔廃止措置技術開発、東電福島第一原子力発電所の廃止措置に係る研究開発、福島オフサイト廃棄物の処理技術開発

○東海再処理施設の廃止措置

東海再処理施設の廃止措置技術開発（除染技術開発、高線量下での遠隔解体技術開発、分析技術開発等）、廃棄物の減容安定化・廃棄体化技術開発（ガラス固化、セメント固化等）及び廃止措置プロジェクトの最適化手法の開発

上記の他、研究施設の運転・維持管理及び技術の高度化に係る業務

○新しい技術開発に果敢にチャレンジし、好奇心・探求心にあふれ、多くの仲間とチームでプロジェクトを推進したいと志している人材。

求める人物像

○困難な課題に対しても、解決策を前向きに考えて自発的に行動できる人材。

○核燃料サイクルに関する技術開発、国内初となる大型核燃料施設の廃止措置という長期プロジェクト完遂には様々な知識・技術が求められるため、原子力に限らず幅広い分野の人材。

アピールポイント

当研究所の最大の特長は、原子炉以外の核燃料サイクル（プルトニウム燃料製造、使用済燃料の再処理、廃棄物の処理・処分、施設の廃止措置）を行う様々な研究開発施設を有し、核燃料物質（ウラン、プルトニウム）、核分裂生成物（30以上の元素、核種）、材料（金属、セラミックス、ガラス、セメント等）を取扱いができる基礎的な実験や試験を行う実験室レベルから工学規模レベルまで行える施設があり、現場に根差した実用的な研究開発を実施できることです。我々は、エネルギーセキュリティやGXの実現の観点から明るい未来を次世代に繋げるための研究開発と東海再処理施設に代表される国内で前例のない大規模な核燃料施設の廃止措置を並行して進めるという非常にチャレンジングな目標を持っています。この目標達成に向けては、皆さんの柔軟かつ発想豊かな感性とバイタリティを持った若い力が必要不可欠です。機構の使命である人類社会の福祉と繁栄に貢献するため、是非我々とともに一緒に働いて頂けることを期待しています。

専攻分野（望ましい分野）

理学系：数学・情報、物理、化学、生物・農学、地学・地球科学、量子科学

工学系：機械・システム工学、電気・電子、材料、土木建築、環境工学、原子力工学

その他：

関連するHP

<https://www.jaea.go.jp/04/ztokai/index.html>

<https://www.jaea.go.jp/04/ztokai/recruitment/index.html>

<https://www.jaea.go.jp/04/ztokai/cyclemovie/>

## 別紙1：令和7年度新卒職員（技術系職員）採用募集要項・業務分野詳細

A-7	本分野関連 拠点名	人形峠環境技術センター
業務概要	人形峠環境技術センターの原子力施設の廃止措置及び鈾山施設の閉山措置を安全かつ着実に進めるため、核燃料物質、鈾さい等を適切に管理し、六フッ化ウランの譲渡しに向けた事業の実施、ウラン廃棄物の処理・処分、閉山措置に係る技術開発等を推進するために、以下の業務を行う人材を幅広く募集します。	
求める人物像	学生時代の専攻は問わず、新しい技術開発や技術の応用に果敢にチャレンジし、多くの仲間とチームでプロジェクトを推進したいと志している人材を求めています。	
アピールポイント	人形峠環境技術センターは、使命を終えたウラン取扱施設の国内初となる廃止措置やウラン廃棄物を安全に処理・処分するといった今後の日本にとって必要不可欠な研究に取り組んでいます。我々が行っているこの研究がいずれは世界のスタンダードになるかもしれません。また、小規模な拠点だからこそ、上級職と若手との距離も近く、なんでも相談できる職場環境のもとで幅広い経験や知識、スキルが身につけ、年齢に関係なく活躍できるステージがあります！	
専攻分野（望ましい分野）	理学系：数学・情報、物理、化学、生物・農学、地学・地球科学、量子科学 工学系：機械・システム工学、電気・電子、材料、土木建築、環境工学、原子力工学 その他：	
関連するHP	<a href="https://www.jaea.go.jp/04/zningyo/">https://www.jaea.go.jp/04/zningyo/</a>	

A-8	本分野関連 拠点名	敦賀拠点
業務概要	敦賀拠点では、大型の水冷却炉では国内初となる原子炉本体解体に臨む「新型転換炉原型炉ふげん」及び国内初の大型ナトリウム冷却炉の解体となる「高速増殖原型炉もんじゅ」の廃止措置を進めています。廃止措置では、燃料取り出しや放射性物質の除去及び廃棄物処理などの措置を行いながら、運転段階に有していた放射線リスクを徐々に低減しながら安全に解体・撤去していきます。両施設の廃止措置は、様々な課題に挑戦する「新たな取り組み」であり、廃止措置の技術確立に向けて、現在は主に以下を進めています。 ○ふげん：原子炉周辺設備の解体撤去、原子炉本体解体に向けた遠隔解体装置の開発、使用済燃料搬出の準備など ○もんじゅ：水・蒸気系等発電設備の解体撤去、ナトリウム搬出の準備、大型ナトリウム機器解体に向けた計画検討や必要となる設備の整備など	
求める人物像	○国内で前例のない廃止措置を進めるため、「新たな取り組み」に対して職場の仲間と協力し、柔軟な発想力で取り組むことができる人。 ○廃止措置は様々な分野での技術や専門性が求められるため原子力工学に限らず、各技術（解体技術（遠隔・自動化を含む）、廃棄物処理処分技術、技術体系化 等）の専門家として活躍していきたいと考えている人。	
アピールポイント	廃止措置の業務は、現場の解体作業ばかりではなく、高い安全性と信頼性を持って行うため、新たな技術開発を進めていく必要があります。我々敦賀拠点では、今後本格化するふげん原子炉本体解体やもんじゅナトリウム機器の解体に係る様々な課題や新たな取り組みに対して、常に前向きに挑戦し日々の業務を行っています。一方、得られた成果については、国内外の学会等で広く発信し、廃止措置技術の普及に努めています。技術開発及び解体作業を通して廃止措置の実証を目指す敦賀拠点において、我々と共に国内の廃止措置プロジェクトをリードし、日本及び世界のスタンダードに目指していくという高い志を持ち、大きな貢献を果たしていきましょう。	
専攻分野（望ましい分野）	理学系：数学、物理、化学、生物、農学、バイオ、地学・地球科学、量子科学 工学系：機械・システム、電気・電子、情報、材料、土木・建築、環境、放射線、原子力 その他：社会科学、総合科学	
関連するHP	<a href="https://www.jaea.go.jp/04/haishisochi/">https://www.jaea.go.jp/04/haishisochi/</a>	

## 別紙1：令和7年度新卒職員（技術系職員）採用募集要項・業務分野詳細

A-9 本分野関連  
拠点名

本部（バックエンド統括本部）

業務概要

私たちの暮らしを支えている原子力や放射線の利用をさらに発展させ、将来にわたって持続可能なものとするために必要な取組の一つである使命を終えた原子力施設の廃止措置や放射性廃棄物処理処分等のバックエンド対策を、安全かつ効率的に進めていきます。

①バックエンド対策の計画的かつ効率的なマネジメントの推進及び合理的な対策や技術開発成果の実証（総合計画の立案と推進、人材育成、知識のデータベース化、AI・先端技術利用による合理化検討、プロジェクト管理 等）

②全国の研究機関や医療関連施設等から発生する低レベル放射性廃棄物（研究施設等廃棄物）の浅地中処分を行うための埋設事業の推進（理解活動を含めた立地活動の推進、埋設事業の計画立案と管理、埋設施設的设计・安全評価 等）

求める人物像

○バックエンド対策に対し、使命感やチャレンジ精神を持ち、意欲的に業務に取り組むことができる人  
○自身の専門分野にとどまらず、協調性を持ち、コミュニケーションを通じて全体の成果に貢献できる人  
○専門分野で独創性や革新性を発揮し、技術開発等を通じてバックエンド対策の魅力を社会に発信できる人

○プロジェクトの推進（施設の廃止措置、バックエンド対策に必要な新規施設的设计・建設等）に意欲と責任を持って取り組むことができる人

アピールポイント

原子力施設の廃止措置や放射性廃棄物処理処分等のバックエンド対策は、国内で喫緊の課題であり、次世代に先送りせず責任をもって安全かつ着実に取り組むべき重要なミッションです。原子力を持続可能なものとする社会的意義や貢献度も大きく、やりがいのあるテーマであり、培った技術開発を通じて国内に限らず世界的に活躍ができるフィールドもあります。

専攻分野（望ましい分野）

理学系：数学・情報、物理、化学、生物・農学、地学・地球科学 等

工学系：機械・システム工学、電気・電子、材料、土木建築、環境工学、原子力工学 等

その他：プロジェクトマネジメント 等

関連するHP

<https://www.jaea.go.jp/04/be/index.html>



## 別紙1：令和7年度新卒職員（技術系職員）採用募集要項・業務分野詳細

B 業務分野名 核セキュリティ及び放射線管理・測定・モニタリングに関する技術開発分野

本分野に関する  
の業務概要

**【B-1 核不拡散・核セキュリティ関連業務】**

○機構が保有する核物質の管理、国際原子力機関(IAEA)等による査察対応、核物質防護、情報システムセキュリティ、包括的核実験禁止条約(CTBT)の国際検証体制支援に関する実務を行います。また、核不拡散・核セキュリティに関する政策研究や専門性を活かした国際人材育成支援を行います。  
○機構が保有する核物質を厳格に管理するために必要な核物質測定のための技術開発や、押収した核物質の出所・履歴等を明らかにする核鑑識、分析技術開発、外部中性子源を用いた核測定・検知技術の開発を行う他、国内外の研究所との共同研究などを行います。

**【B-2 安全管理・放射線管理・測定・モニタリング関連業務】**

○原子力施設の放射線安全確保のため、放射線管理及び施設周辺の環境放射線・放射能監視を実施します。運転管理等で取得した放射線管理データ等に分析を加え、より高度な放射線管理等に反映します。  
○原子力施設のより一層の安全性向上を目指し、放射線管理等の高度化に関する技術開発を行います。具体的には、内部・外部被ばく線量評価に関する研究、新しい放射線検出デバイス等の開発、環境中の超ウラン元素分析等に関する技術開発等それぞれの分野での世界最先端の技術開発を行います。  
○原子力施設等で事故が発生しないよう、安全管理、品質保証活動に取り組みます。万一、事故等が発生した際に社会的に大きな事象に発展しないよう、事態の収束に向けた危機管理対応を行います。さらに、緊急時に利用可能な情報通信システム等の開発・整備も行います。

求める人物像

**【B-1 核不拡散・核セキュリティ関連業務】**

核不拡散・核セキュリティ分野における実務、技術開発、国際協力等、強い意欲と責任感を持って取り組める人材を、また、語学を含むコミュニケーション能力や専門性に対する向上心とそれを使って国際的な場で活動する意欲の強い人材を求めます。

**【B-2 安全管理・放射線管理・測定・モニタリング関連業務】**

原子力施設の放射線管理、線量測定、環境モニタリングに関する分野での管理業務、技術開発等に強い意欲と責任感を持って取り組める人材を求めます。また、危機管理（緊急時対応）に強い興味を持ち、事故・トラブル発生時に落ち着いて対応できる人材を求めます。

アピールポイント

**【B-1 核不拡散・核セキュリティ関連業務】**

○核兵器と核テロのない世界の実現を目指して、国際原子力機関を始めとする海外や国内の政府関係機関との連携を深めながら、核不拡散の一層の強化、核セキュリティの向上と非核化支援に積極的に取り組んでいます。また、これらの取り組みを通じて、核不拡散、核セキュリティの専門家、国際機関等で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

**【B-2 安全管理・放射線管理・測定・モニタリング関連業務】**

○これまで、日本の放射線防護を日本保健物理学会、日本原子力学会等の活動を通じてリードしてきました。原子力施設と一般公衆や作業者とのインターフェースとして、放射線管理、被ばく管理、環境影響評価等の業務に取り組んでいます。また、最新の知見を得るために、国際機関（IAEAやICRP等）に職員を派遣しております。さらに、これらの経験を経て、国や自治体等のアドバイザーとして、指導助言に当たります。

専攻分野（望ましい分野）

理学系：数学・情報、物理、化学、生物・農学、地学・地球科学、量子科学

工学系：機械・システム工学、電気・電子、材料、土木建築、環境工学、原子力工学

その他：

関連するHP

<https://www.jaea.go.jp/04/isrc/>

<https://www.jaea.go.jp/04/ntokai/houkan/index.html>

<https://www.jaea.go.jp/04/ztokai/summary/center/houshasen/>

<https://www.jaea.go.jp/04/o-arai/research/safety.html>

## 別紙1：令和7年度新卒職員（技術系職員）採用募集要項・業務分野詳細

C	業務分野名	建設及びユーティリティ施設の工務技術に関する分野
	本分野に関する業務概要	<p>【C-1 建設に関する分野（土木・建築系、電気・機械系、耐震、地震・津波評価等）】 機構が建設又は保有する原子力施設、研究施設等について、耐震、免震、制振等の最新技術工法による建築・土木構造物及び機械・電気設備の設計・構造評価及び施工監理の業務を実施するとともに、設計・構造解析手法、建設工法等の最新化・最適化に係る技術開発等の業務に従事する。また、規制・基準要求に基づき、地質・地盤構造の調査・解析を行い、地震動・基準津波を策定し、地盤・構造物への影響を評価する業務に従事する。</p> <p>【C-2 ユーティリティ施設の工務技術管理に関する分野（土木・建築系、電気・機械系）】 原子力施設や研究施設等の運転・保守管理、各施設への電力等のユーティリティ供給を行うとともに、原子力施設の内装設備（機器、配管、機械類、電子装置等）の設計製作、施工監理、規制・基準に基づく設備の許認可対応及び技術開発に係る業務を行う。また、建築物・構築物、機械及び電気設備の営繕に係る補修・改修工事の設計、施工監理の業務を行う。</p>
	求める人物像	原子力施設や研究施設の重要性や特殊性を認識したうえで、適用される法令等の規制要求を十分理解できる能力を有する者。また、業務を遂行する上で必要な知識・技術を理解・吸収し、ニーズに合ったものを具現化できる高い専門性を有するとともに、研究開発を円滑に進める環境を整える重要な役割を担うことを認識し、自発的かつ確実な業務遂行に向け組織の一員として良好なコミュニケーションが図れる人物。
	アピールポイント	原子力機構における土木建築系業務の魅力（若手職員の感想） <ul style="list-style-type: none"><li>・国家的な大きなプロジェクトに携われる</li><li>・業務の幅が広く、様々な場所で業務や人に携われる</li><li>・一人ではなく、チーム一丸となって業務に当たっている</li><li>・新しい技術を取り入れたり、挑戦する機会が多い</li><li>・技術職でも研究開発に意欲的であったり、理解のある人が多い</li><li>・男女問わず働きやすい環境作りを意識してくれている</li></ul>
	専攻分野（望ましい分野）	理学系： 工学系：機械・システム工学、電気・電子、材料、土木建築、環境工学、原子力工学 その他：
	関連するHP	<a href="https://www.jaea.go.jp/04/ntokai/">https://www.jaea.go.jp/04/ntokai/</a> <a href="https://www.jaea.go.jp/04/ztokai/index.html">https://www.jaea.go.jp/04/ztokai/index.html</a> <a href="https://fukushima.jaea.go.jp/okuma/">https://fukushima.jaea.go.jp/okuma/</a>

## 別紙1：令和7年度新卒職員（技術系職員）採用募集要項・業務分野詳細

D	業務分野名	基幹情報システムの運営・技術開発分野
	本分野に関する業務概要	基幹情報システムは、日本原子力研究開発機構(以下、機構)の業務遂行に不可欠な重要インフラであり、機構の各種情報システムの安全性と信頼性を確保するための情報セキュリティ対策システム、日本全国に広がる機構の各拠点を結ぶネットワーク、原子力研究を支えるスーパーコンピュータ、機構業務のデジタル化を支援する情報基盤等から構成されます。 本テーマでは、基幹情報システムに係る運用・管理、企画(整備計画立案)、システム設計、データ分析・解析、検証等を行うとともに、システム開発(構築・整備)、ソフトウェア開発、情報セキュリティやデジタル化のための技術開発を実施します。また、機構のDX推進に係る技術的検討、環境構築にも従事します。
	求める人物像	○機構業務を支える基幹情報システムの重要性・意義を理解し、自らの役割を認識、行動できる人。 ○常に先端情報技術の習得に努め、自身の強みを伸ばすことができる人。 ○他の職員等(システムの利用者)との円滑なコミュニケーションができる人。
	アピールポイント	機微な技術を扱う機構において、機密情報や個人情報の保護、サイバー攻撃からの防御等の業務は、機構の根幹を支える重要な仕事です。また、基幹情報システムの設計や開発、DX推進等にあたり最新技術の導入に従事することで、常に新しい技術の習得や適用が求められ、自身のスキル向上や新たな価値の創造に挑戦することができます。
	専攻分野（望ましい分野）	理学系：数学・情報 工学系：機械・システム工学、電気・電子 その他：情報（計算機システム・ネットワーク）
	関連するHP	<a href="https://ccse.jaea.go.jp/">https://ccse.jaea.go.jp/</a>